

平和行動in広島



原爆ドーム前にて

8月4日～6日、平和行動in広島はより多くの方に参加いただけるよう1泊2日と2泊3日の2行程を設定し、産別・地協より17名が参加しました。

1日目は、「2012平和ヒロシマ大会」が開催され、オープニングでは、全都道府県からの折鶴献納が実施され、連合群馬として1万8千羽を献納しました。大会では、連合本部・古賀会長からの挨拶をはじめ、被爆者からの訴え、ピースメッセージ、ピースフラッグリレーなどが行われ、最後に平和アピールが採択されました。

2日目は、連合主催の「ピースセミナー（平和の語り部・被爆体験の証言）」に参加し、20歳のとき被爆した坪井直さんから体験談を聞くとともに、「現在は、語り部も高齢化が進み少なくなっている。戦争の悲惨さを忘れないで欲しい」と熱い思いが語られました。

午後の「被爆電車乗車学習会」では、当時原子爆弾によって被爆した123輛の内、現在運行されている2輛の路面電車に乗車し、車窓から沿線の被災

地域や建物など当時の状況について説明を受け学習しました。その後、平和公園内の慰霊碑を巡り、原爆の子の像に折鶴を献納し、恒久平和の想いを共有しました。

3日目は、平和記念式典に参加し、被爆者の御霊に哀悼の意をささげるとともに、核兵器廃絶と恒久平和を確認し合いました。



連合広島青年委員から説明を受ける



2輛のみが運行されている（広島電鉄）



平和を祈って鶴を献納

世界平和を求めて！ 2012平和パネル展開催

8月3日～20日、県勤労福祉センターと8月10日～12日、スマーク伊勢崎において平和パネル展を開催し、会館利用者や買い物客など延べ300名に会場いただきました。

平和パネル展は、戦争の実態を写真などのパネルで多くの人に見てもらい、あらためて平和の

大切さを考えようという趣旨で実施しました。

また、今回のパネル展では、北方領土返還要求推進県民会議と連携し、北方領土問題に関するパネルの展示も行いました。

来場者からは、このような活動を広めてもらいたいとの声も寄せられました。



幅広い年齢の方が来場された



折り鶴に協力してくれた小学生



パネルに見入る買い物客